

SDGs を取り入れたまちづくり～SDGs 未来都市しもかわ～

北海道下川町政策推進課 SDGs 推進戦略室長 蓑島 豪

1. 経済・社会・環境の好循環により持続可能な地域社会を創る

下川町は、北海道にある人口約 3,200 人の小規模自治体ですが、町の面積は東京 23 区と同等で、このうち森林が 88%を占め、半世紀以上前から森林資源を活用したまちづくりを行っています。

下川町では、「持続可能な地域社会の実現」を目指し、政府から環境モデル都市（2008 年）、環境未来都市（2011 年）の選定を受けるなどして、経済・社会・環境の 3 領域の価値創造、統合的解決をコンセプトに、経済領域では、林業・林産業システム革新などによる森林総合産業の構築、環境領域では、森林バイオマス活用による地域エネルギー自給と低炭素化、社会領域では、集落再生などによる超高齢化対応社会創造に取り組んでいます。

こうした取組みを進める中で、近年は人口減少が緩和、人口社会動態では転入者増の年が散見、森林バイオマスによる地域熱エネルギー自給率が 56%に到達、これにより地域全体の CO2 排出量が約 20%削減されるなどの効果が発現しています。

こうした取組みと成果が評価され、2017 年の「第 1 回ジャパン SDGs アワード」において、内閣総理大臣賞（最高賞）を受賞しました。

2. SDGs をツールとして活用し地域活性化

下川町では 2016 年から SDGs を取り入れたまちづくりに取り組んでいます。具体的には、地域住民が中心となり、SDGs を取り入れた「2030 年における下川町のありたい姿（下川版 SDGs）」を 2018 年 4 月に策定、2018 年 6 月には、下川版 SDGs とこの実現のための事業を中心とする内容で政府から「SDGs 未来都市」に選定されるなど、現在は下川版 SDGs の本格実行段階にあります。

3. 下川版 SDGs の実現には未来人材育成が重要

下川版 SDGs の策定では、半年以上にわたり様々な議論がありましたが、一貫して重視されたのは「子どもの未来」についてです。こうしたことから下川版 SDGs は 7 つの目標で構成されていますが、目標の 1 つに「子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち」という目標が設けられました。

この目標の実現に向けて、2019 年度から“地域で子供を育む姿”を表す「地域共育ビジョン」の策定に着手、2019 年度中の策定を目指して様々な住民が関与した中でビジョンづくりを行っています。そして 2020 年度からはビジョンに基づき、地域や関係機関との協働による持続可能な人材育成のしくみづくりを進めていく考えです。

4. 地域内外の多様な主体との共創

下川町では、下川版 SDGs の実現を通して SDGs の達成へ貢献していく考えですが、この実現に向け行動する“担い手”と地域内外の多様な人々との“共創”が不可欠です。この2つの重要なファクターに「全国 ESD・SDGs 自治体会議」が取組み、全国の地方自治体へ横展開していくことが、地方創生、SDGs の達成につながると考えますので、今後の更なる展開を期待します。